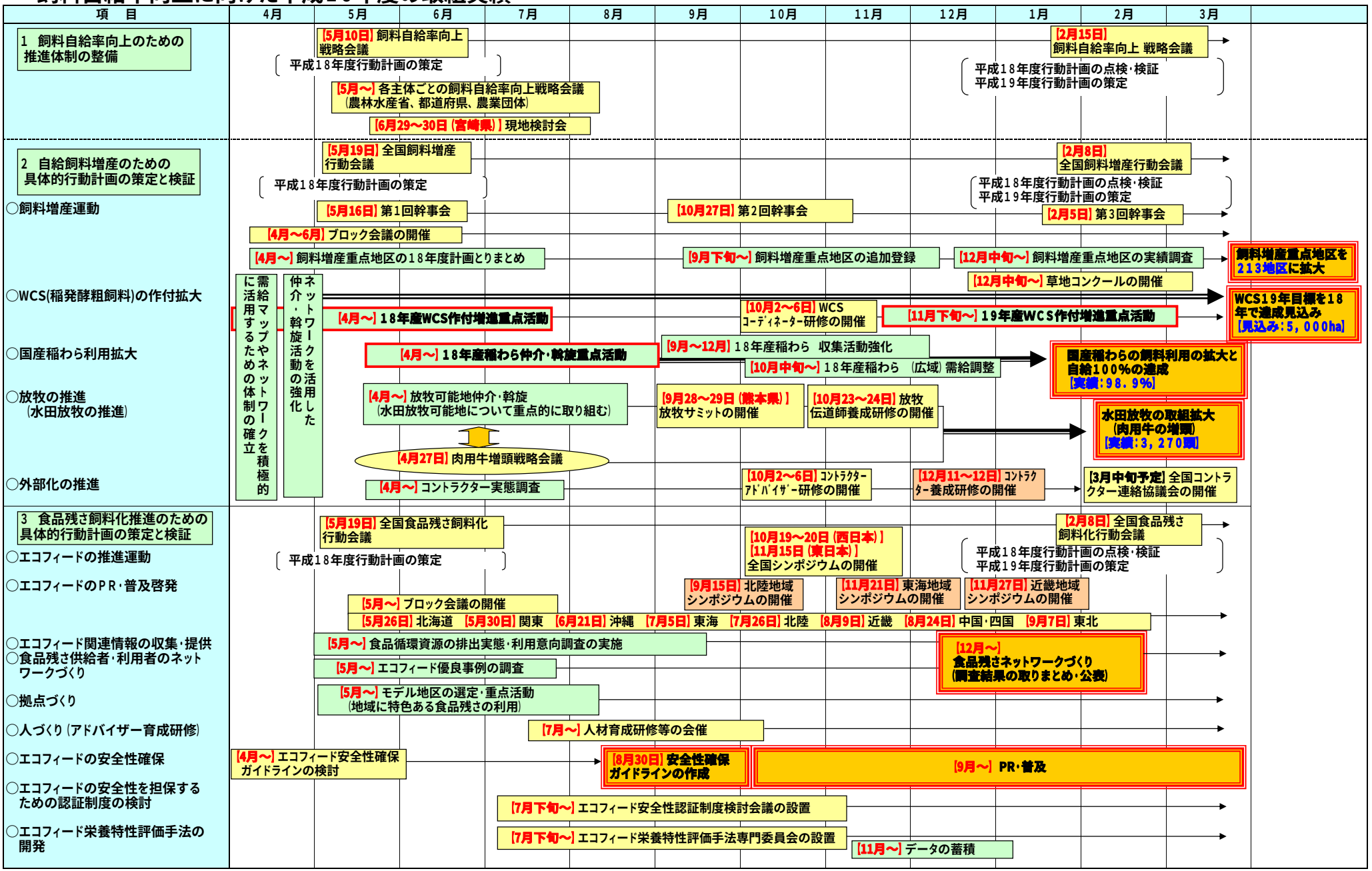
資料2

飼料自給率向上に向けた平成１８年度の取組結果について

平成１９年2月
農林水産省生産局畜産部

平成１８年度飼料自給率向上に向けた取組の評価と課題

18年度行動計画	18年度取組目標	取組の評価と課題
【自給飼料】		
地域の飼料増産への取組の核となる人材の育成	人材育成の拡大　H18(目標) 放牧伝道師　50名程度 稲ＷＣＳｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　50名程度 ｺﾝﾄﾗｸﾀｰｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　50名程度	専門指導者養成の取組みは着実に推進（放牧７４名、稲WCS42名、ｺﾝﾄﾗｸﾀｰ42名）。今後はこれら指導者が生産現場において技術を還元していく必要。なお、専門指導者の絶対数は不足。
稲発酵粗飼料の仲介･斡旋及び作付拡大に向けた早期かつ重点な取組	稲発酵粗飼料の作付拡大 19年度作付面積　5,000ha	19年度目標面積5,000haを達成見込。水田転作における麦や大豆との競合等により、稲発酵粗飼料の位置づけが弱い地域が存在。
国産稲わらの仲介･斡旋及び収の早期かつ重点的な取組	国産稲わらの飼料利用の拡大と自給１００％の達成	稲わら自給率は９８．９％に達したところ。需給量に見合った国産稲わらの供給を実現するため、広域流通体制整備が必要。
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ、現地検討会の開催を通じた放牧の推進	水田放牧の取組拡大 （放牧頭数5,000頭） （肉用牛の増頭）	放牧頭数は3,270頭で目標未達成。転作水田等を活用した放牧の取組は拡大しているものの、取組の地域的な偏りが存在。
【エコフィード】		
ｴｺﾌｨｰﾄﾞの普及･関係者の理解醸成	全国･地域ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催	食品産業、農業団体、消費者等が参画した推進会議を設置、シンポジウム(5ヶ所780名)、勉強会(4ヶ所347名)を開催。認証制度及びエコフィード畜産物の検討が必要。
品質･安全性の確保	ｴｺﾌｨｰﾄﾞ安全性ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの作成	安全性確保のためのガイドラインを制定（H18年8月）。安定利用のためｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝのＰＲとともに、栄養特性評価手法を確立。
全国的なｴｺﾌｨｰﾄﾞ資源の発生実態把握	全国的なｴｺﾌｨｰﾄﾞ資源の発生実態調査の実施等	配合飼料製造工場、養豚農家のエコフィード利用実態調査を実施。利用推進に向けた情報提供体制確立のため継続的に情報収集。

飼料自給率向上に向けた平成１８年度の取組実績